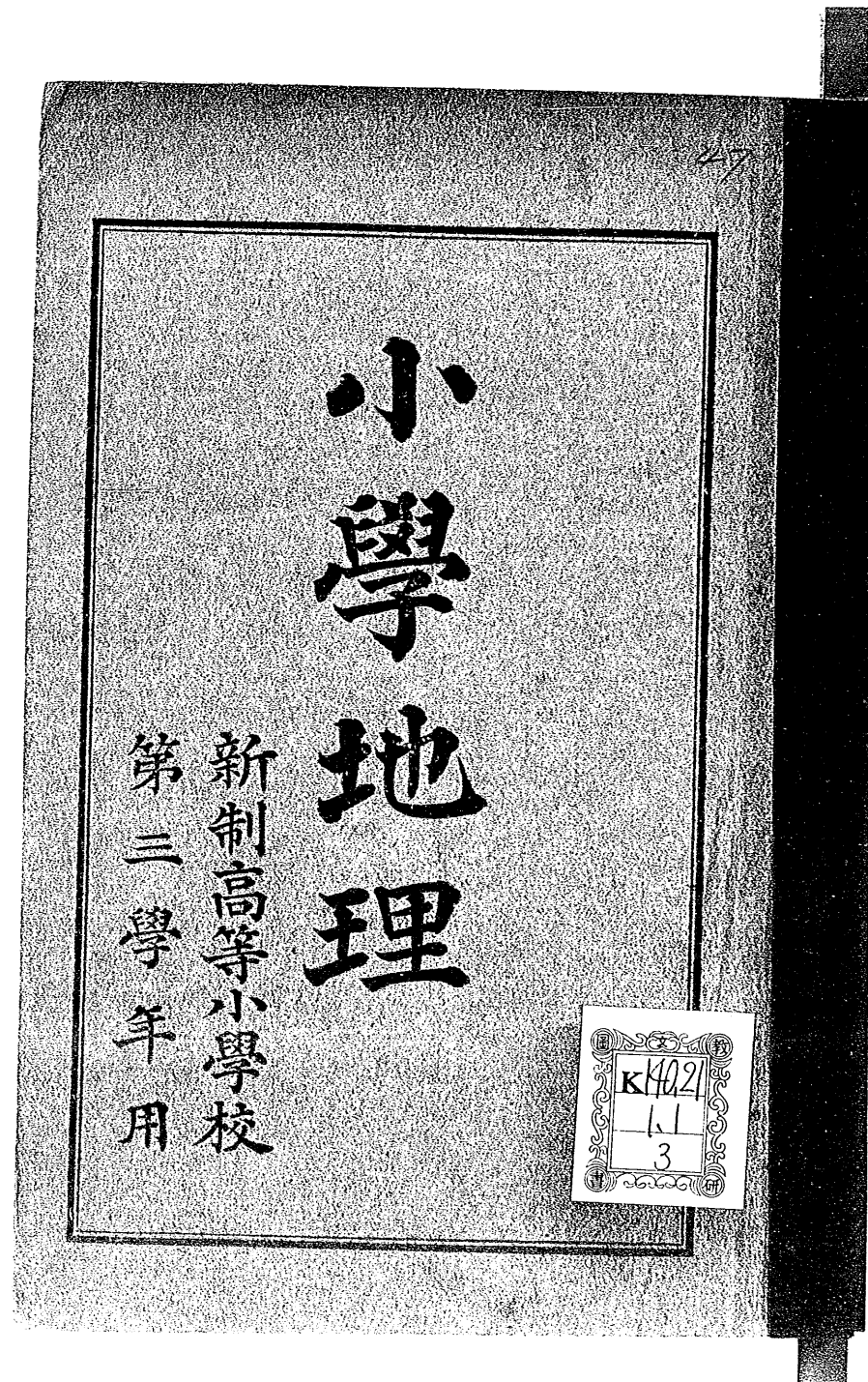




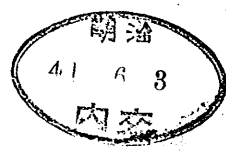
D3

150



小學地理
文部省

新制高等小學校
第三學年用



目 録

第一 大日本帝國	一
一 國土	一
二 住民	三
三 農業及び林業	八
四 水産業	十三
五 鑛業	十五
六 工業	十七
七 外國貿易	二十
八 交通	二十四
九 外交	三十
十 教育	三十三
十一 兵備	三十七
十二 財政	三十九
第二 韓國	四十一
第三 關東州	五十三
第四 滿洲	五十六
第五 世界に於ける我が國の位置	六十三

小學地理

新制高等小學校
第三學年用

第一 大日本帝國

一 國土

面積

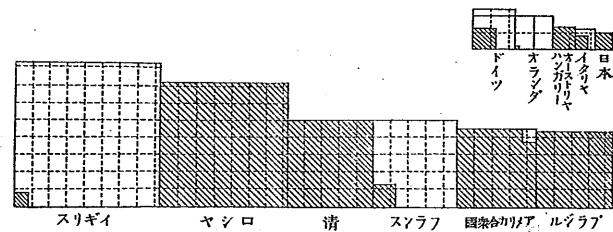
我が大日本帝國は亞細亞大陸の東岸に沿ひ、太平洋の西北に位する島國にして、大小數多の島嶼より成る。是等の島嶼の中にて本州・四國・九州の三大島及び其の附近の島々は早くより開けて夙に帝國の主要部となれり。北海道の如きも、維新後國勢の發展すると同時に其の拓殖大いに進歩し、又日清戰役の結果、臺灣及び澎湖島を我が所領とし、更に日露戰役の結果、樺太の南半を收めしかば、ここに我が國土は著しく南北に擴張するに至り、面積凡そ二萬九千方里

諸國の面積

(符號説明)
 □ 本國
 ■ 領地

風土

諸國面積比較



となれり。

現今世界には凡そ五十の邦國ありて、中には廣大なる土地を有するものも少からず。英吉利の如きは其の面積、本國のみにては我が國と伯仲の間に在れども、其の領地各大洲に亙りて全版圖、世界陸地の凡そ五分の一を占め、露西亞、清國、佛蘭西、亞米利加合衆國、伯刺西爾等も之に次ぎて其の土地頗る廣し。

此の如く世界の諸國の中には其の面積の廣大なるものあれども、是

種族

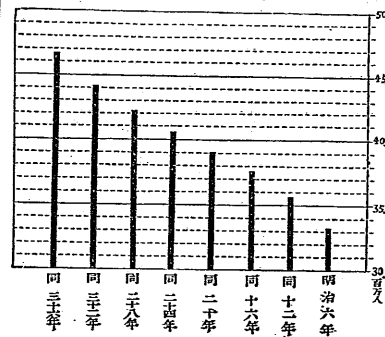
等の中には風土宜しからずして、人事の發達に適せざる地方を有するもの少からず。然るに我が國は其の大部分、北溫帶の中に位して、氣候概ね良好に、地味肥沃にして、種々の產物に富み、加ふるに海岸屈曲多くして良港少からず、其の地位亦太平洋交通の要路に當れり。されば我が國は面積著しく大ならざれども、地理上自然の利益を有すること世界に比類稀なりと云ふべし。

二 住民

我が國の住民は其の大部分、亞細亞人種に屬する大和民族にして、古より重に本州四國、九州の三大島に住せり。其の中には外國より歸化服屬せしものあれども、皆よく融和

人口の増加

人口の増加
年比比較 (臺灣を除く)



順するに至れり。

我が國の人口は年々増加し、現今にては其の數凡そ五千一百萬あり。近年は其の増加殊に著しく、明治六年には凡そ三千三百萬なりしも、明治三十八年には臺灣の住民を除きて凡そ四千八百萬

して一團の國民を造り、忠君愛國の精神に富めり。此の外臺灣には支那人、生蕃人、北海道にはアイヌ人、樺太にはアイヌ人、ギリヤーク人、オロコ人等あり。就中支那人は臺灣の重なる住民にして、我が國民となりてより日尙淺きも、漸次我に同化し、最も開けざる蕃人すら、次第に蕃風を脱して歸

都會の人口

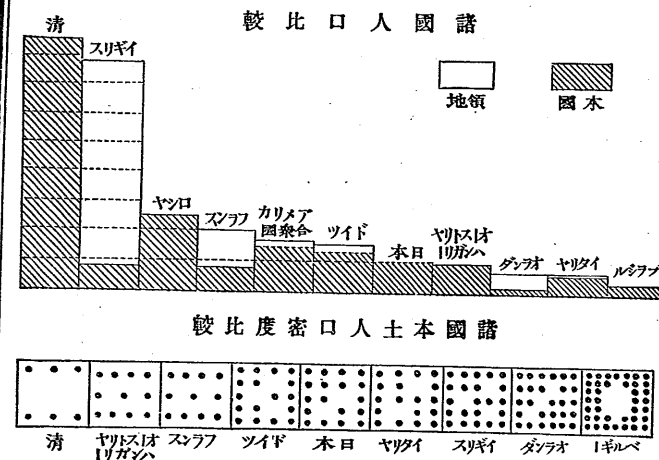
諸國の人口

となり、其の間の平均、一箇年に四十五萬人以上の増加をなせり。現今其の密度も全國の平均、一方里に一千七百五十人となり、關東地方及び近畿地方の如きは、全國平均密度の二倍以上に及べり。

近時商工業の發達と共に、住民著しく都會に集中する傾向ありて、都會の人口は殊に増加せり。試みに著名の都會に就いて見るに、東京、横濱、名古屋、大坂、神戸等の如きは、十數年前に比すれば凡そ二倍以上に上れり。五萬以上の人口を有する都會の數も十數年前には十七に止りしが、現今にては臺灣の都會を除きて、二十七の多きに至れり。

世界の諸國中、人口の最も多きは清國と英吉利とにして、何れも世界總人口の凡そ四分の一を占め、我の八倍内外に

(符號説明)
 ・は人口一〇〇
 を示す



及べり。之に次ぐを露西
 亞佛蘭西亞米利加合衆國
 獨逸とし、其の他の諸國は
 我に及ぶものなし。而し
 て獨逸、英吉利等も其の本
 國のみに就いて云へば、我
 が國と大差あるを見ず。
 諸國の本土にて、人口密
 度の最も大なるは白耳義
 と和蘭とにして、各、我が國
 の一倍半以上に當る。之
 に次ぐは英吉利伊太利の

海外在留民

各本國にして、其の密度は略、我が國と相似たり。而して英
 吉利の本國は人民の都會に住するもの殊に多く、人口五萬
 以上を有する都會の數、我が國の三倍に及べり。
 我が國の海外在留民は明治二十年頃より漸次多きを加
 へ、近きは韓國、清國、香港、シベリヤ等に、遠きは濠太刺利・ハワ
 イ、北亞米利加の西海岸等に赴きて、是等の地方に在留する
 もの著しく増加せり。明治三十年頃よりは其の數一層増
 加して、今や韓國、滿洲、ハワイ諸島に於ける本邦人の數は諸
 國居留民中最も多數を占め、尙南亞米利加にも渡航を企つ
 るもの少からざる状態となれり。明治三十九年に於ける
 我が海外在留民の總數は二十餘萬人にして、之を明治十七
 八年頃に比すれば實に二十倍の増加なり。されど之を世

在留外國人

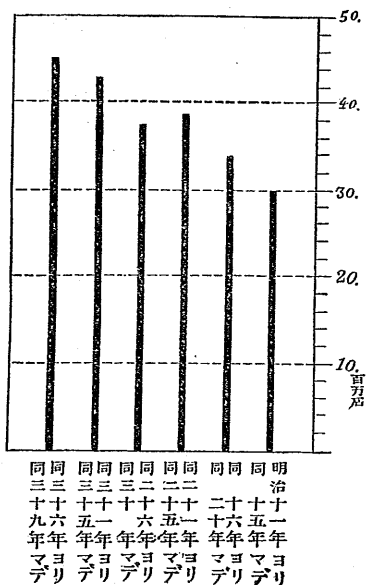
界諸國中、最多の移住民を有する清國及び伊太利と比すれば、著しき懸隔あり。英吉利・露西亞獨逸等と比するも、尙遙に少きを見るなり。

我が國に在留する外國人は清國人最も多く、英吉利・亞米利加合衆國人之に次ぎ、其の他の諸國人亦少からず。是等の外國人は概ね東京・横濱・神戸・長崎等に住し、其の中には商業上優勢の位置を占むるものあり。又近年我が國勢の進むと共に清韓等より來りて留學するもの大いに増加し、世界各國よりも觀光若しくは我が國情研究等の目的を以て來遊するもの甚だ多し。

三 農業及び林業

農業

米產額年平均比
(除を海・島)

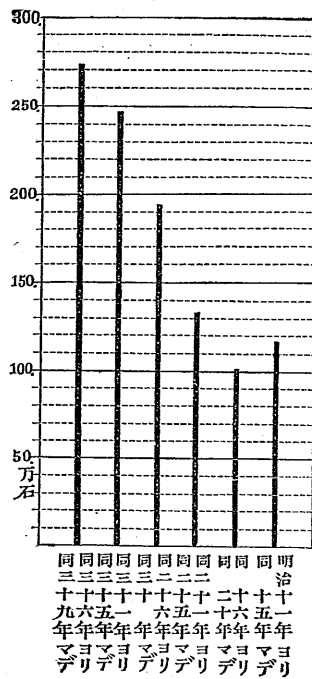


我が國は狹長にして山岳多き島國なれば、大陸に於て見るが如き大なる平野なく、本州の關東・濃尾・越後・大坂の諸平野、九州の筑紫・平野、北海道の石狩・平野、臺灣の西部平野等を以て最も著しきものとするに過ぎず。されど全國の氣候、地味概ね植物の生育に適し、又農業は古來住民の大いに力を用ひし所なるのみならず、殊に近年は耕作の方法、耕地の整理等着々歩を進めつつあるを以て、面

積に比して生産甚だ豊富となれり。

今、米・麥・繭の一年に於ける産額を見るに、米は内地に凡そ四千五百萬石、臺灣に凡そ四百萬石、麥は凡そ二千萬石、繭は二百五十萬石以上に及び、其の内地の産額を今より二十餘年前の産額に比すれば、米・麥は當時の五割以上を増加し、繭は二倍以上に達せり。而して米は本州・九州・臺灣の諸平野

繭産額累計年平均比較



に多く産し、麥は關東平野濃尾平野大坂平野等の如き二

毛作のよく行はるる地方に多く産す。又繭は從來關東平野の西北部、本州の中央部、奥羽の南部等に多く産し、近年は其の他の地方にも著しく産額を増せり。随つて是等の地方は生糸の産出に富み、全國の生糸産額は一年二百萬貫以上に及び。

以上の外、茶・甘蔗・馬鈴薯等も亦農産物中の著しきものなり。茶の一年の産額は内地に七百萬貫、其の價額一千万圓、臺灣に二百萬貫、其の價額五百萬圓あり。内地産の凡そ三分の一は静岡縣より産し、京都府・三重縣之に次ぐ。臺灣にては淡水河の流域地方最も多く之を産す。甘蔗は四國・九州・琉球諸島・臺灣等我が國の溫暖なる地方を主産地とす。随つて是等の地方は砂糖の産出に富み、其の全額一年

に三億斤以上あり。又甘藷・馬鈴薯は年々其の産額を増加すること極めて著しく、一年の産額、甘藷は八億貫、馬鈴薯は一億三千萬貫に及べり。

かく我が國の主要農産物は漸次其の産額を増し、尙多きを加へんとする勢を有せり。されど其の中には國內の需要を充たす能はざるものありて、米は世界の主要米産地たる印度支那及び韓國より、麥粉は世界第一の小麥産地たる亞米利加合衆國より輸入すること多し。又砂糖は其の産額少からざれども、尙マライ諸島・獨逸・清國等より輸入すること多し。

要するに我が國の農産物にて、外國貿易上最も重要な位置を占むるものは生糸・茶の二種なり。中にも生糸は全輸

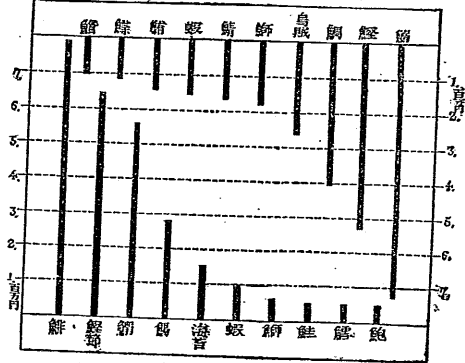
林業

出品中の第一に位し、其の年額一億圓以上に及ぶ。主として亞米利加合衆國・佛蘭西・伊太利等へ輸出し、清國産伊太利産と共に世界の市場に其の名を専らにす。茶は其の産額遙に英領印度・清國・セイロンの下に在れども、亞米利加合衆國・カナダ等へ輸出するもの多く、年額一千六百萬圓に達し、尙世界の重なる貿易品たるを失はざるなり。

林業は近時意を造林に用ふると共に、從來人跡の殆ど到らざりし北海道・臺灣等の森林も漸次伐採せらるるに至り、大いに其の産額を増せり。其の副産物中、樟腦及び樟腦油は世界の特産を以て稱せられ、重に臺灣・九州等に産す。

四 水産業

重要漁獲物年産額



重要水産物製造年産額

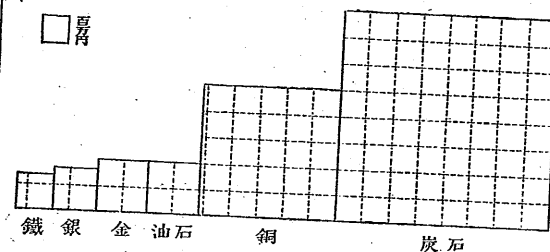
我が國は四面に海を環らし、面積の割合に海岸線長くして、領海の區域甚だ廣大なるのみならず、近海に寒暖の二海流あれば、頗る漁業の利に富み、亞米利加合衆國、英吉利、露西亞、諸威等と共に水産物の産出殊に多きを以て有名なり。近年に至り、遠洋漁業も漸く盛んとなり、加ふるに水産に最も有望なる樺太の南部を得、シベリヤの太平洋沿岸に於ける漁權をも得たるを以て、我が漁業範圍は更に一層の擴張を來せり。又千島

五 鑛業

及び樺太近海の獵虎、臘肭獸は一時濫獲の爲に大いに其の數を減ぜしが、近時は之を警むると同時に、其の繁殖を圖るに至れり。水産物一年の産額は漁獲物五千萬圓、製造物三千五百萬圓、鹽一千萬圓あり。是等の中、産額の最も著しきものは、鯉、鰒、鰯等にして、鯉は北海道、樺太の近海に、鰒、鰯は本州の東部、四國及び九州の太平洋沿岸方面に多く産し、鹽は瀬戸内海の沿岸及び臺灣の西南岸等に多く産す。又輸出品の重なるものは、錫、昆布、寒天等にして、多く清國及び香港へ輸出す。

古來我が國の鑛業は其の方法甚だ幼稚にして、鑛産物の

重要産物年産額



産額多からざりしが、維新以後新式の機械を利用して、此の業に従ふもの漸く多く、從來の金・銀・銅・鐵等の外、更に石炭・石油等をも採掘し、其の産額も漸次増加するに至りたり。而して金は新潟縣の佐渡、秋田縣の小坂、鹿兒島縣の牛尾山、臺灣の金瓜石、瑞芳、銀は秋田縣の小坂、樺木縣の足尾、愛媛縣の別子等の諸礦山、石炭は福岡縣の三池、筑豊、北海道の石狩等の諸炭田より多く産す。

最近の調査によれば、鑛産物の年額は一億圓以上に達せり。而して其の

二分の一は石炭、四分の一は銅にして、是等を我が國主要の鑛産物とす。石炭は國內に於ける工業及び交通の進歩に伴ふ多大の需要に應じ得るのみならず、清國・香港・韓國等へ輸出し、銅も亦香港・英吉利・清國等へ輸出する額少からず。されば我が國は石炭に於ては亞米利加合衆國・英吉利・獨逸・佛蘭西等と共に、世界の主産地に數へられ、銅に於ても亞米利加合衆國・墨西哥・西班牙等と共に、世界の主産地に數へらるるなり。又石油は其の産額少からざれども、國內の需要を充たすに足らざるを以て、年々亞米利加合衆國・マライ諸島及び露西亞より少からざる補給を仰げり。

六 工業

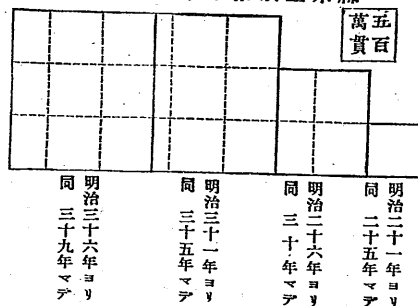
工業

第一 大日本帝國 (工業)

十八

我が國の産業中、近時最も急速の進歩をなしたるは工業なり。古來我が國民は美術的技能に長じ、諸種の工藝品の

綿糸生産額年平均比較

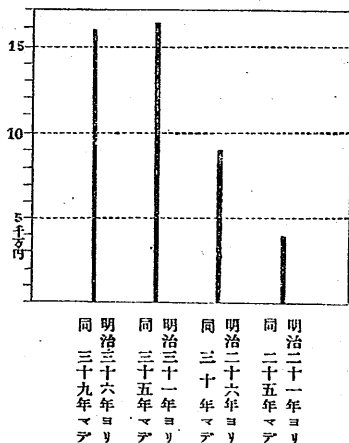


々の工業はここに一大進歩をなすに至れり。就中綿糸紡績業・織物業・鐵工業等は最も新進の勢を有せり。

製作に従事するもの多し。随つて漆器・陶器の如きは開港後直ちに主要の輸出品となりて其の名を博したれども、唯小規模の手工品に過ぎずして、其の産額甚だ微々たりき。

然るに近來機械工業大いに發達し、國內の豊富なる石炭と水力とを利用する大規模の工場各所に興り、種

織物業額累年平均比較



綿糸紡績は綿の大産地たる印度・亞米利加合衆國及び清國より多量の原料品を輸入して、盛んに其の業を営み、年額四千五百萬貫に達し、其の凡そ四分の一は清韓二國へ輸出す。綿織物業も亦大いに進歩し、年額凡そ八千萬

圓に達し、金巾・浴巾等の清韓等諸國に向ふもの甚だ多し。又絹織物も著しく産額を増加して年額凡そ七千五百萬圓に及び、羽二重・絹手巾等は重に亞米利加合衆國・佛蘭西・英吉利等へ輸出す。綿糸及び織物は生糸と共に我が國の最も

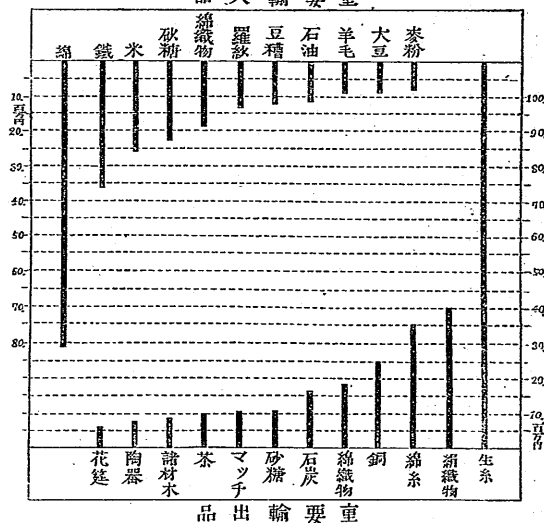
重要なる輸出品たり。

我が國の鐵工業は從來甚だ振はざりしが、近時諸工業の勃興は國內に鐵工業の發達を必要とするに至り、八幡製鐵所を始め、鐵工場所々に興れり。されど國內鐵鑛の產出に乏しく、鐵及び其の製品は重に英吉利、獨逸等の外國產に仰げり。又造船術は製鐵業の盛んとなると共に、其の進歩極めて顯著となり、今や巨大なる船艦をも能く建造するに至れり。

七 外國貿易

我が國の貿易は國內に於ける諸種の産業の發達に伴ひて、漸次盛況に向ひ、最近の輸出入總額は一年凡そ九億圓と

品入輸要重



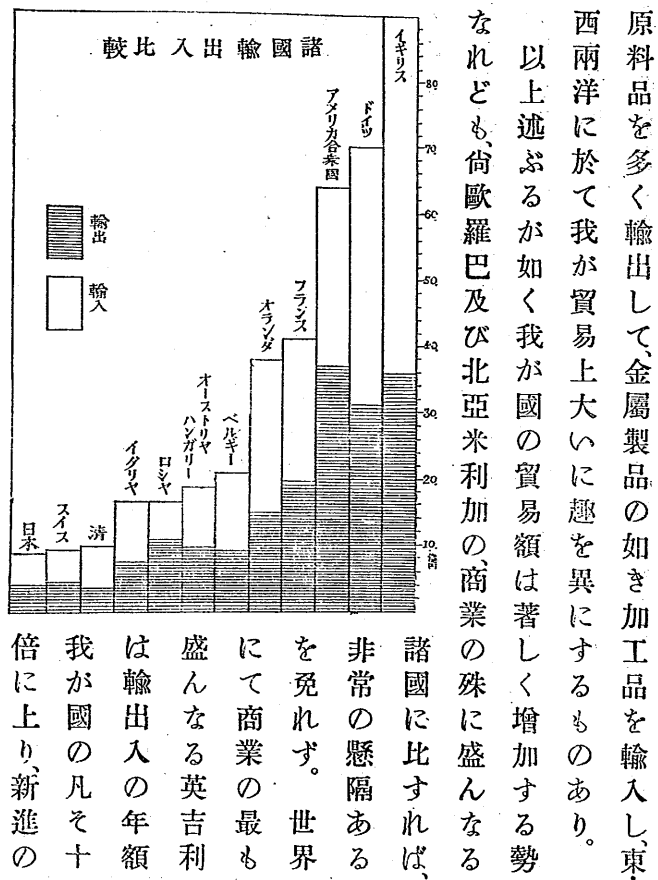
品出輸要重

なり、十年前に比較すれば二倍以上の額に上れり。輸出品の重なるものは一年の總價額一億圓を越ゆる生糸を第一とし、絹織物、綿糸、銅、綿織物、石炭、砂糖、マンチ、茶等之に次ぎ、輸入品の重なるものは一年の總價額凡そ八千萬圓の綿を始め、鐵及び其の製品、米、砂糖、綿織物、羅紗、豆糟、石油等之に次ぐ。是等の輸出入品の最も盛んに取引

せらるる方面は東部及び南部亞細亞にして、全貿易額の凡そ四割は此の地方の占むる所なり。之に次ぐは西部歐羅巴及び北亞米利加にして、大洋洲・南亞米利加との貿易も次第に盛況に向はんとす。又國別に就いて云へば各國との貿易は亞米利加合衆國を第一とし、清國・英吉利等之に次ぎ、何れも一年の總額一億圓以上に達す。英領印度・獨逸・佛蘭西・韓國・香港等更に之に次ぐ。而して輸出と輸入を比較するに亞米利加合衆國・清國・佛蘭西・香港・韓國等へは輸出多く、英吉利・英領印度・獨逸等よりは輸入多し。

更に其の物品に就いて見るに、亞細亞の諸國に對しては、重に綿織物の如き加工品を輸出して、綿の如き原料品を輸入し、歐羅巴の諸國・亞米利加合衆國に對しては生糸の如き

諸國の貿易



勢ありと稱する獨逸及び亞米利加合衆國は我が國の七倍以上に及び。佛蘭西和蘭等も亦遙に我が國の上に位し、其の他瑞西の如き小國にても、尙我が國と伯仲の間に在り。

八 交通

鐵道

交通機關の中にて最も重要なものは、汽車、汽船と郵便電信となり。我が國の鐵道は官設私設の兩線ありて、其の幹線は殆ど全國の首尾を一貫せり。從來私設線は全線の過半を占めたりしが、近時主要の鐵道は總べて官有となれり。現今線路の延長は五千百哩ありて、之を全國の面積に比すれば六方里につき鐵道一哩の割合にして、最も多く敷設せられたる關東及び近畿地方は、凡そ二方里二分の一に

汽船

つき一哩の割合なり。

汽船は總噸數百萬噸を超え、内外の航路大いに擴張して、韓國滿洲へは固より、北清南清シベリヤ等への航海も頻繁となれり。是等の海外航路を通ふ汽船は重に日本郵船大坂商船東洋汽船の三會社に屬す。日本郵船會社の汽船は清國韓國の諸港及びシベリヤのウラヂオストクへ航海する外、遠く濠太利のシドニーメルボルン、印度のボンペル等へも往復せり。大坂商船會社の汽船は主として清國韓國の諸港及びウラヂオストクへ航し、東洋汽船會社の汽船は香港サンフランシスコ間等を航海せり。其の外日清汽船會社の清國にて揚子江及び其の附近に航路を開ける

ものあり。

かく我が國の海外航路は近時大いに擴張したれども、尙外國汽船にして東部亞細亞と南北亞米利加と、及び東部亞細亞と西部歐羅巴とを通ふもの甚だ多し。是等の汽船は概ね英吉利獨逸亞米利加合衆國佛蘭西等の汽船會社に屬し、我が輸出入貨物の過半は是等の外國船によりて運ばれ、殊に其の三分の一は英吉利船の運搬する所なり。

郵便は維新後國內各地に開かれしが、明治十年萬國聯合に加盟したるを以て、世界の重なる諸國とは一定の料金を拂ひて、互に書信を通ずるを得べし。韓國の通信業務は我が統監府の所管に屬し、清國の要地にも亦我が國の郵便局あり。何れも内地と同様の規定によりて通信し得べし。

郵便

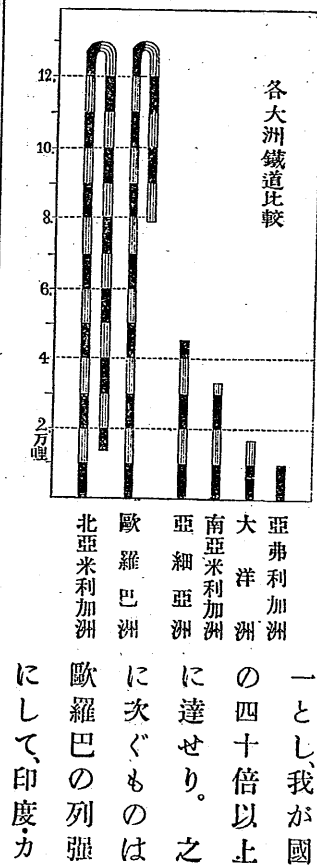
電信

電信は國內殆ど其の設備あらざる所なく、屬島離島に在りても尙其の便を有するもの少からず。又海外に對しても郵便と同じく、萬國聯合の規定によりて通信し得べし。海外諸國に通ずる主要の線は九州より韓國に至るもの、臺灣より清國福州に至るもの、長崎より上海及びウラヂオストクに至るもの、小笠原島より北亞米利加のサンフランシスコに至るものとす。長崎より上海に至る線は是より南支那海・印度洋・地中海を経て歐羅巴へ通じ、ウラヂオストクに至るものは是よりシベリヤを経て歐羅巴へ通ずるなり。凡そ交通機關は産業の發達と相關係すること多く、産業の發達せる所には、交通の機關も亦整備せるを常とす。今鐵道に就いて之を徵するに、各大洲中最もよく發達せるは

諸國の交通

歐羅巴にして、平均三方里餘につき鐵道一哩の割合に當れり。之に次ぐものは北亞米利加にして、其の他の大洲は皆遙に其の下位に在り。諸國の中には白耳義英吉利を第一とし、瑞西は山國なれども其の次に位す。

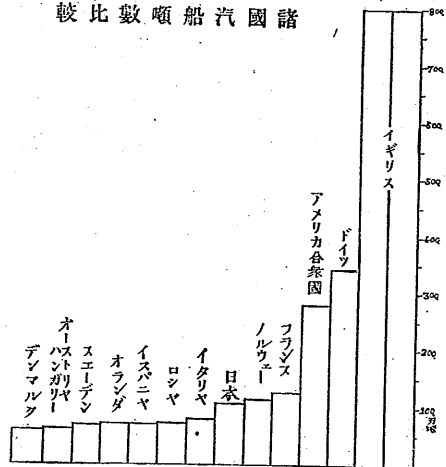
又各大洲中總延長の最も長きは北亞米利加にして、之に次ぐを歐羅巴とす。諸國の中には亞米利加合衆國を第



ナダ・墨西哥・亞爾然丁等更に之に次ぐ。

海上の交通に於ては、近年列國頻りに巨大快速の汽船を造りて、遠洋航路の擴張を圖るを以て、其の數及び噸數著しく増加せり。最近の調査

諸國汽船噸數比較



によるに、世界汽船の總噸數は凡そ三千萬噸にして、英吉利其の二分の一を占む。獨逸と亞米利加合衆國とは之に次ぎ、而かも遙に其の下に在り。

此の如く世界の交通機關大いに進歩し、海には汽

船あり、陸には汽車ありて、海陸の道程爲に甚だしく短縮したるの感あり。今幹線となるべき海陸の交通線路によれば、四十餘日にして世界を一週するを得べし。即ち敦賀を出發し、凡そ二日にして日本海を渡り、ウラヂオストクより鐵道により、凡そ十五六日にして獨逸のハンブルグ若しくは英吉利の倫敦に達すべし。之を海路、長崎より印度洋地中海の航路を取るものに比すれば、日數の半をも要せざるなり。是より更に海路五六日程を以て大西洋を渡り、陸路凡そ四五日程を以て北亞米利加を横斷し、太平洋を航すること凡そ十二三日にして、横濱に歸着するを得るなり。

九 外交

外交

我が國は江戸幕府の末、亞米利加合衆國と和親の條約を結びてより、漸次英吉利露西亞等の西洋諸國とも交通を開きたり。明治維新以後は更に廣く諸外國と交り、現今にありては世界の主要なる諸國とは悉く條約を結び、概ね大使又は公使を交換せり。條約國の數は二十五あり。其の中我と大使を交換せるものは英吉利亞米利加合衆國獨逸佛蘭西露西亞墺地利洪牙利伊太利にして、我と公使を交換せるものは清國暹羅瑞典白耳義和蘭西班牙墨西哥伯刺西爾なり。又葡萄牙諸威秘露亞爾然丁等には我より公使を置かずして、他の諸國にある我が公使兼轄せり。而して英吉利は我が同盟國にして共に東洋の平和を圖り、佛蘭西露西亞も近時東洋の平和に關して我と協約を結び、更に親交の

度を加へたり。亞米利加合衆國は我が國の始めて條約を結びし國にして、外交史上最も記憶すべき國なり。清國と韓國とは其の地最も我に接近し、古來我と親密なる關係を有せり。殊に韓國は現今我が保護の下に在りて、政治上經濟上我と利害を共にせり。

又通商上必要なる都會には大使公使の指揮の下に總領事若しくは領事等を置けり。清國の上海・天津・奉天・哈爾濱・印度のカルカッタ・濠太刺利のシドニー・英吉利の倫敦・カナダのオタワ・亞米利加合衆國の紐育・サンフランシスコ・ホノルル等には總領事館ありて、清國の漢口・營口・廈門・英吉利領の香港・シンガポール・ボンベール・シベリヤのウラヂオストク・佛蘭西のリヨン・白耳義のアンベルス等には領事館を置けり。

其の他の地にても通商上の關係ある所には、領事の代に名譽領事を置くを常とす。又我が重なる開港場には英吉利・亞米利加合衆國・露西亞・佛蘭西・獨逸・清國等の領事館あり。横濱・神戸・長崎には外國領事館の數殊に多く、淡水・大坂・函館等之に次げり。

十 教育

我が國は維新後、教育普及の方針を採り、明治五年學制を頒布して男女六歳以上のものは悉く學に就かしむることと定め、普通教育に最も力を用ひしが、近年時勢の進歩と共に更に學理を究め又は技藝を修むる學校も大いに増加し、教育上著しき進歩を見るに至れり。

教育

現今内地の小學校總數は凡そ二萬四千(外に分教場三千餘)あり。而して學齡兒童中就學者の數は六百四十萬人の多きに達し、其の割合は百人につき九十六人に及べり。又臺灣にも小學校・公學校・樺太にも小學校の設あり。かく教育の普及せるが上に、近時從來の義務教育四箇年の年限を延長して六箇年となし、一層深く國民の智徳を涵養せんことを期するに至れり。中等教育の施設も亦漸次盛んとなり、多數の中學校及び高等女學校あり。

普通教育の隆盛となるに隨ひて、師範教育も漸次擴張せられ、師範學校は北海道及び各府縣に各、一校以上あり、又高等師範學校は東京・廣島に各、一校、女子高等師範學校は東京・奈良に各、一校あり。

實業教育は日清戰役後殊に盛んとなり、各地方産業の狀態に隨ひて、農・工・商等に關する普通の知識技能を授くる學校多く建設せらるるに至れり。又高等なる實業教育をなす學校も各地に設立せられ、高等農林學校・高等工業學校・高等商業學校等十數校を數ふるに及べり。

高等なる實業教育の外、別に高等の學術・技藝を學ぶもの爲に帝國大學・高等學校・醫學專門學校・東京外國語學校・東京美術學校・東京音樂學校等あり。就中帝國大學は東京・京都及び仙臺に各、一校あり。福岡には京都帝國大學に屬する醫科大學、札幌には仙臺の東北帝國大學に屬する農科大學を設く。又東京には以上諸學校と相似たる教育を施す數多の私立學校あり。

軍事教育に關する學校は陸軍大學校、海軍大學校、陸軍士官學校、海軍兵學校、海軍機關學校等、其の最も重なるものなり。

かく教育の隆盛となるに隨ひて、學藝に關する知識技能は著しく發達し、我が新研究を以て諸國の識者を驚嘆せしめしこと少しとせず。されば清韓等諸外國よりも來りて我が教育を受くるもの多きに至れり。されど歐米列強の教育に關する施設に比すれば、尙及ばざるものあり。殊に獨逸の如きは普通教育最もよく普及し、又高等教育も大いに進歩して大學の數甚だ多く、學理の應用も亦極めて盛んにして、自ら世界學術の中心たる觀あり。されば我が國人の是等諸國に留學して、其の文物の輸入に意を用ふるもの

現に八百人の多きに及べり。

十一 兵備

兵備

我が國の兵備は維新以後舊法を改め、西洋の法に則りて、新に組織せられたり。陸軍は明治六年近衛兵の外に東京仙臺、名古屋、大坂、廣島、熊本の六箇鎮臺ありしが、其の後國運の發展する毎に益、兵備を擴張するの必要を感じ、日清戰役の後には十三箇師團、日露戰役の後には十九箇師團となし、今や臺灣、樺太は固より、韓國、滿洲にも我が兵備あるに至れり。

海軍も亦陸軍と相待つて著しき發達をなせり。即ち明治五年頃には不完全なる軍艦のみにして、其の總噸數も僅

諸外國の兵備

に七千餘噸に過ぎざりしが、其の後有力なる軍艦も加はりて、日清戰役以前に至りては凡そ六萬噸となり、近年に至りては激増して、今や總噸數五十萬噸となれり。而して戰艦及び裝甲巡洋艦等戰鬪の主力となるべきもののみにても、三十五萬噸を超ゆ。

現今世界の列強は、其の國の形勢によりて陸海防備の輕重を異にするものありと雖も、何れも大いに兵備の擴張を圖り、以て不慮の變に備ふ。列強中陸軍の強大なるは獨逸、露西亞、佛蘭西等にして、海軍の優勢なるは英吉利、佛蘭西、獨逸、亞米利加合衆國等なり。就中英吉利は二百萬噸以上の軍艦を有し、戰鬪の主力となるべき軍艦のみにても百三十萬噸以上に及び、其の領地は固より、苟も其の商船の到る海

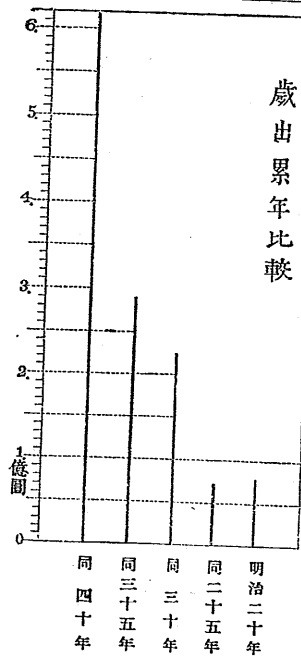
財政

面には之を派遣して通商航海の保護に任せしむ。其の他の列強にも亦遠く根據地を設けて、多數の軍艦を配置せるものあり。されば我が國の近隣にても他國軍艦の根據地少からず、例へばウラヂオストクは露西亞、香港及び威海衛は英吉利、膠州灣は獨逸、サイゴンは佛蘭西、マニラ灣は亞米利加合衆國の軍艦の根據地なるが如し。

十二 財政

我が國は維新以來百事の改良を圖り、國力の發展に意を用ひたるを以て、之に要する歳出は年を逐うて増加し、殊に近年兵備の完整、新事業の創始、經營等大いに爲すべき事業を加へたるにより、歳出俄に増加せり。即ち明治二十六年

歳出累年比較



度頃までは僅に八九千萬圓に過ぎざりしが、明治二十九年には一躍して一億七千萬圓に上り、明治四十一年度には六億圓以上の多額に達せり。之に應ずる歳入の主なるものは地租・酒税・關稅・所得稅等の租稅・煙草及び鹽の專賣益金・鐵道益金等なり。國債は明治二十七八年までは凡そ三億圓に過ぎざりしが、戰事費等の爲に急に増加して、今は二十億圓以上に及べり。世界列強の財政は各、其の國情によりて歳出の額及び科

第二 韓國

目等に異同あれども、概ね國防・交通勸業・教育等に莫大の支出をなせり。而して國債は重に戰事費若しくは新事業の經營に充つる爲に起すを常とせり。

位置

地勢

韓國は東部亞細亞にある半島國にして、日本海と黃海との間に突出し、北は滿洲及び亞細亞露西亞に連り、南は朝鮮海峽を隔てて我が國に對す。面積凡そ一萬四千方里あり。地勢は大陸部と半島部との二部に分る。大陸部には數條の山脈ありて、何れも東北より西南に延び、河水も亦山脈に沿うて流る。山脈の最も著しきものは長白山脈にして、

滿洲との境に横たはる。韓國第一の高山たる白頭山は實に此の山脈中に聳ゆるなり。鴨綠江・豆滿江の二大河は源を此の山脈に發す。鴨綠江は西南へ流れて滿洲との境をなし、豆滿江は東北へ流れて、其の下流亞細亞露西亞との境をなす。鴨綠江の南方には大同江あり、其の下流に沿うて肥沃の平野あり。半島部は南北に長くして、其の脊梁をなせる大白山脈は東方に偏せるが故に、其の以東の日本海岸は土地險しく平地甚だ少けれども、其の以西の黃海と朝鮮海峽との方面は、丘陵の起伏せる間に肥沃の平野ありて、漢江・錦江・榮山江・洛東江等、此の平野を流る。

海岸は日本海方面と其の他の方面とによりて、大いに其の趣を異にす。日本海に臨める方面は出入極めて少く、單

氣候

に永興灣を著しき灣入とす。黃海及び朝鮮海峽に臨める方面は海岸線長く、港灣島嶼に富めり。濟州島は韓國第一の大島として著る。潮汐干満の差に於ても、日本海の方面には僅に一尺に過ぎざるも、黃海の方面には極めて著しく、或は三十尺以上に及ぶ所あり。黃海方面に於けるが如き潮汐干満の差は、全世界に於ても稀に見る所とす。加ふるに此の方面は概ね遠淺なれば、干潮時には著しき干潟を生ずる所あり。

韓國は其の地、三方海に瀕すれども、大陸に連れるにより、大陸の氣候の影響を受けて、寒暑の差甚だしく、冬は頗る寒くして、北部の河水全く氷結するに至る。されど冬季には屢寒暖の變化あるを以て、凌ぎ難きことなし。殊に南部の

海岸地方は、海洋の影響を受けて氣候の溫和なること、我が本州大部の地と相似たり。雨量は夏・秋に多けれども、概して少量にして、南部の海岸地方の如き最も多き所と雖も、尙我が國にて雨量の少き瀬戸内海地方に似たり。

産業

産業は農業を主とす。耕作の方法未だ進まざるものありしが、近時我が國人の赴きて農業に従事する者あるを以て、漸次改良せられ、收穫も爲に増加の傾向あり。現今産物の著しきものは米・大豆・人參・牛皮等にして、綿・煙草・桑等の栽培も亦大いに有望なりと云ふ。森林は南部には殆ど之を見ざれども、鴨綠江の沿岸には大なるものありて、今は日韓兩國共同して之を經營することとなれり。鑛産物は重に砂金にして、全國各地より之を産し、南部の近海には鯛・烏賊

外國貿易

東北部の近海には明太魚を多く産す。近時我が中國・四國・九州等より、遠く此の地方に出漁するもの多し。

外國貿易は仁川・釜山・元山等の開港場に於て行はれ、其の年額凡そ四千萬圓に達せり。然れども輸入著しく超過する傾向ありて、輸出額は全貿易額の四分の一にも及ばず。

交通

輸出の重なるものは砂金・大豆・米・牛皮にして、輸入の重なるものは綿織物・綿糸・金屬製品等なり。是等を取引すること最も多きは我が國にして、清國・亞米利加合衆國之に次ぐ。道路は甚だ不完全にして、驕馬は今尙重要な交通機關たり。されど近時、陸には我が國の經營に係れる京釜・京義等の鐵道あり、海には我が國の汽船・諸港間を往來し、郵便・電信等の事業も漸次國內に普及し、交通上大いに面目を改むる

住民

に至れり。

住民は略、我が大和民族と似たる種族にして、其の數殆ど一千万あり。南部は人口稍稠密なれども、北部は甚だ稀薄にして、全國の密度、我が國に比すれば遙に小なり。住民は概ね土造藁葺の小屋に住して、溫突おんどこを備へ、白色の衣服を用ふるもの多く、又安逸を貪るの風あり。教育は古來甚だ幼稚なりしが、近時我が國に倣ひて諸種の學校令を布き、大いに教育の普及を圖れり。

我が在留民

我が國人の在留するものは近時著しく増加して、其の數殆ど十萬に達せんとす。概ね開港場若しくは内地の重なる都邑に住す。本邦人の多く居留せる所にては、居留民團を組織して自治制を行ひ、教育・衛生等の設備見るべきもの

政治

あり。殊に釜山・仁川・鎮南浦・群山・木浦・元山の如きは、全く我が内地風の市街をなせり。

政體は君主專制にして、中央政府は内閣及び内部度支部・軍部・法部・學部・農商工部の六部より成り、各部の長官を大臣と云ふ。地方は之を十三道に分ち、各道に觀察使を置き、其の下に府尹・郡守等あり。是等の政務機關の運用は總べて我が統監府の指導・承認によりて行はれ、官吏には本邦人の任ぜらるるもの少からず。

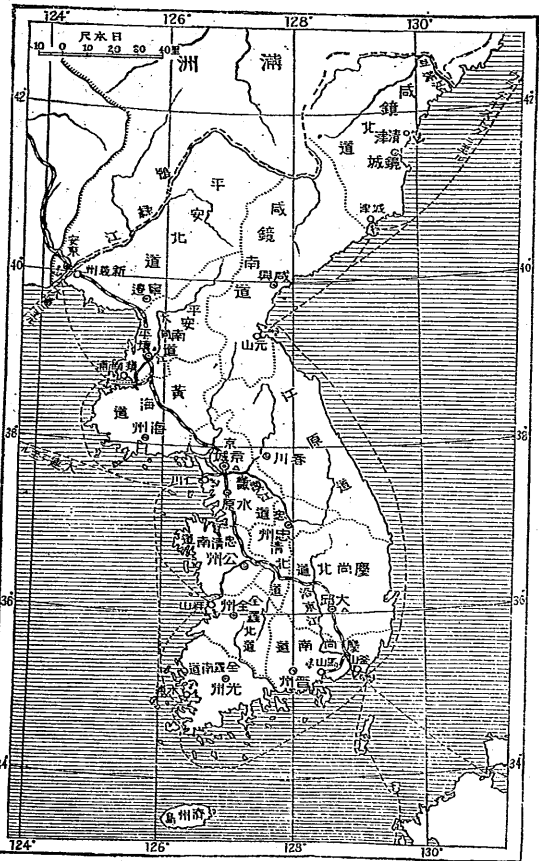
統監府は京城に在り。統監は帝國政府を代表して、韓國の外交・通信・鐵道等を管理し、内治を監督す。統監府の下には各要地に理事廳ありて、地方の外交事務を行ひ、居留本邦人を監督す。又京城・平壤等には我が軍隊を派遣して不慮

區分

に備へ、鎮海灣と永興灣とには我が防備あり。

地方の十三道中、京畿、黃海、江原の三道は略、全國の中央に

(符號説明)
● 首府
○ 觀察府所在
○ 地
○ 理事廳所在
△ 開港場



都邑

位す。平安南北及び咸鏡南北の四道は北部を占め、普通に之を北韓地方と云ふ。又忠清南北、全羅南北、慶尙南北の六道は南部に在りて、南韓若しくは三南地方と云ふ。

首府京城は全國第一の都會にして、京畿道に在り。北には北漢山あり。南には南山を控へ、漢江其の南麓を流る。四方に城壁を繞らし、八門を設けて都城出入の門口となす。皇居昌德宮は市街の北に位し、統監府及び駐劄軍司令部は南山に在り。龍山は京城の西南に隣り、京釜鐵道と京義鐵道との接續點なり。仁川は京城の西方に在りて、其の咽喉として著る。西南部の海岸地方は土地肥沃にして農産に適し、近海は水産に富み、其の海岸に群山、木浦、馬山、釜山の四

開港場あり。中にも釜山は仁川に次ぐ開港場にして、日韓交通の門戸に當り、京釜鐵道の起點たり。洛東江の上流に大邱あり、京釜鐵道の重要な驛にして、春秋の大市は頗る盛んなり。京城の南に在る水原には勸業模範場及び農林學校あり、全國農事改良の中心たり。

京義鐵道の通ずる地方は南韓地方と共に國內屈指の農産地にして、開城平壤等の都邑あり。開城は一に松都と云ひ、高麗の舊都にして、多額の人參を産出す。平壤は大同江流域の中心に在りて、北韓第一の都會なり。此の地は豐太閔征韓役及び日清戰役の戰場として其の名聞ゆ。大同江口に近く鎮南浦あり。鴨綠江に臨める新義州は京義鐵道の終點なり。

沿革

北韓地方の日本海方面には未開の地多くして、人口少く、都邑は概ね海岸に在りて、元山、咸興、城津等最も名あり。中にも元山は東海岸第一の良港にして、永興灣の内に在り、砂金、明太魚等の輸出多し。

朝鮮半島の地には古來屢革命ありて、數多の邦國興亡せり。其の最も早く史に著るるものを古朝鮮となす。其の領域は大同江と遼河との間に在りて、今の韓國の西北部より清國の遼東地方に亙れり。又半島の南部には馬韓、辰韓、弁韓ありて、之を三韓と稱したりき。我が紀元六百年代の頃には此の地方に百濟、新羅の二國起りて、北方に起れる高麗と共に半島内に鼎立せり。此の三國をも我が國にては三韓と云ひき。

神功皇后新羅を征服し給ふに及び、百濟我が國に服屬し、高麗も亦來りて好を我に通じたり。後、百濟・高麗の兩國は一旦唐に滅されたるも、新羅は唐の助を借りて、遂に半島を統一せり。されど新羅の衰ふるに及び、王氏の高麗朝之に代り、我が紀元二千五十二年に至り、李氏更に高麗を滅して朝鮮國を建てたり。これ今の韓國の始祖なり。是より朝鮮は我が國と交通し、豐太閤の征伐に遇ひて一時彼我國交斷絶せしも、幾ばくもなく復舊して幕末に及べり。

維新後我が政府は改めて韓國と條約を結びて、其の獨立國なることを承認せしより、西洋諸國も之に倣ひて條約を結ぶもの多くなりしが、國力弱くして獨立の實を全うすること頗る困難なる事情ありき。されば我が國は常に之を

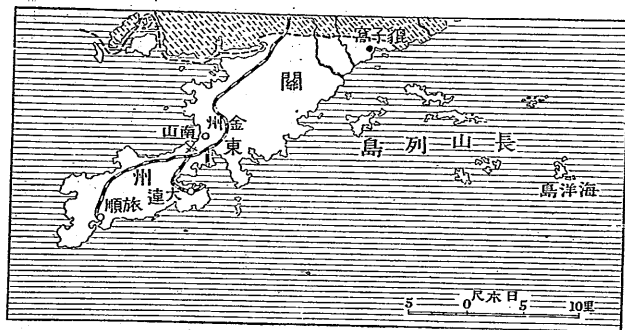
第三 關東州

關東州は、遼東灣と西朝鮮灣との間に突出する遼東半島の南部にして、我が國の租借地なり。其の面積凡そ二百方里あり。

地勢

行政區分

人口



地勢、丘陵多くして平地に乏しけれども、海岸は屈曲多くして漁鹽の利に富み、大連金州の兩灣は南北の兩側より深く入り込みて、南山一帯の地峽をなせり。東方の海上には長山列島あり。

我が國は關東州に關東都督府を置きて之を管轄せしめ、更に其の下に旅順大連金州の三民政署を置きて各管内の政務を行はしむ。

人口は凡そ三十七萬あり。其の大部分は清國人にして、本邦人は一

都邑

沿革

萬三千人に過ぎず。清國人は多く東北部に住し、本邦人は重に西南部に住せり。

旅順は半島の南端に近き所に在りて、後に丘陵を負ひ、前に良錨地を有する軍港なり。ここに關東都督府の外、鎮守府あり。大連は大連灣に臨み、規模宏大なる開港場にして、又滿洲の重要な門戸なり。金州は南山の北に在りて、金州灣に面する都會なり。

遼東半島は日清戰役の結果、清國より之を我が國に割譲し、其の後我より彼に還付せし地にして、關東州は實に其の一部なり。ついで露西亞は此の關東州の地を清國より租借し、大連灣に築港を企て、旅順の要塞を堅固にし、東清鐵道より分岐する鐵道を延長してここに至らしむる等、頗る其

の施設に盡くす所ありき。然るに日露戦役の結果、我が國は露西亞に代りて此の地を租借し、加ふるに長春以南の鐵道、撫順炭坑等を得たれば、都督府の下に軍隊を派遣して、鐵道の守備に任せしめ、別に南滿洲鐵道會社を大連に置きて、鐵道炭坑等の經營をなさしむることとせり。

第四 滿洲

位置

滿洲は清國の東北部に在り、一に之を東三省と云ふ。これ清國の行政區分たる盛京吉林黑龍江の三省の地なるが故なり。北は亞細亞露西亞に接し、東南の一部は韓國に連り、西南は遼東灣に臨む。面積我が國の凡そ二倍あり。

地勢

地勢は西南部と東北部との二部に分る。西南部は一に南滿洲と稱し、其の東部には山脈連互し、西南に突出して遼東半島をなす。半島の南部は即ち關東州の地なり。山脈の西には廣き滿洲平野あり、遼河は數多の支流と共に此の平野を流れ、西南に向ひて遼東灣に入る。東北部は山岳多けれども、黑龍江の支流なる松花江は、嫩江其の他の諸流を合はせて其の間を流れ、沿岸には廣き平野あり。

氣候

氣候は韓國に比して更に大陸性を帶び、寒暑の差甚だしく、夏季には時に大雨降れども、其の他の時季には乾燥するを常とす。夏季大雨の際には道路泥濘となりて、殆ど膝を没するに至り、冬季寒冷の際には地面・河流悉く凍結して、車馬を通ずるに便なり。されば農民は夏季耕作に従ひ、冬季運搬

産業

の業務に就くの風あり。

産業は農業を主とし、住民はよく其の業に力むるを以て、耕地廣く、生産に富めり。されば南部には大豆、高粱等を多く産し、又豆油、豆糟の製造行はる。北部には多く小麥を産して、盛大なる製粉所の設あり。牧畜も亦汎く行はる。鴨綠江岸には有望なる大森林あり、日清兩國合同して之を経営することとなれり。鑛産は石炭を主なるものとし、撫順炭坑を始め、所々に其の産地あり。

交通

交通は從來重に遼河及び松花江の水運によりたりしが、近時東清鐵道は東西に、南滿洲鐵道は南北に通じ、數條の支線を派するに及びて、陸上の交通便利となるに至れり。

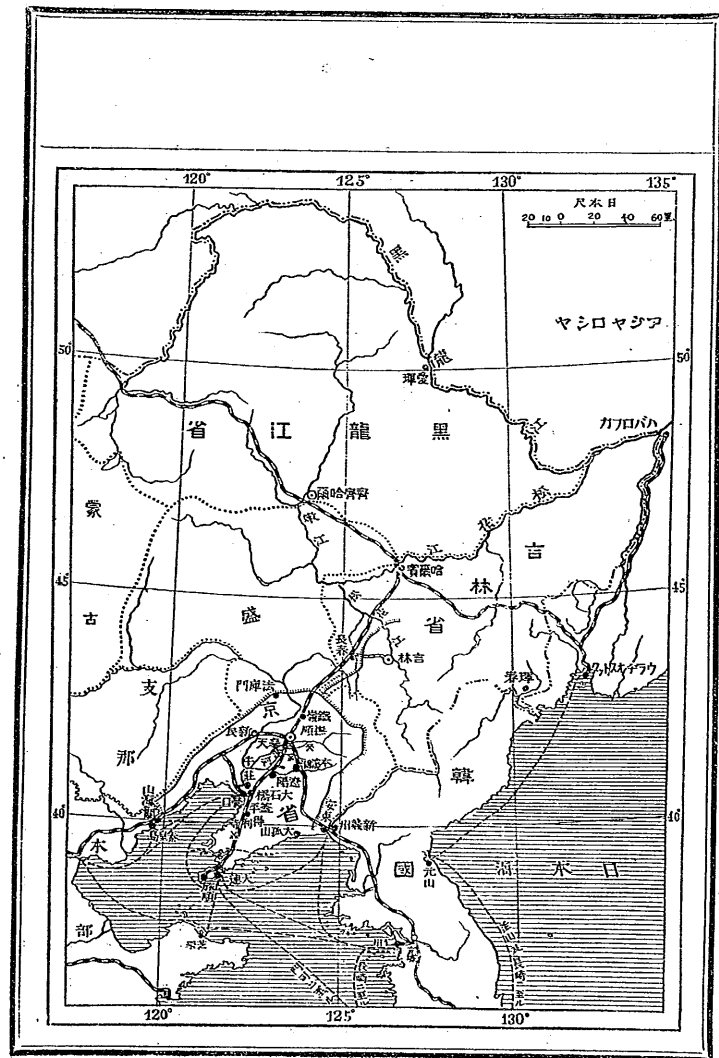
住民

住民は重に亞細亞人種に屬する滿洲人と漢人により成

都邑

り、其の數凡そ一千五百萬あり。滿洲は元來滿洲人の住地にして、今の清朝實に此の地より興る。然るに後、都を支那本部に遷してより、住民多く彼の地に移り、却つて此の地には漢人相踵いで移住し來り、其の數、全人口の過半を占むるに至れり。又南滿洲には本邦人の在留するもの多く、重に奉天、安東、遼陽、營口、鐵嶺等に住す。されば是等の都會には我が總領事館、領事館等の設あり。又南滿洲鐵道に沿へる都會には廣大なる鐵道附屬地ありて、本邦人の經營に係る市街益發達せんとす。

南滿洲の主要なる都會は概ね遼河本支流の沿岸に在り。就中奉天は大平野の中央に位し、四通八達の便を有し、滿洲に於ける政治、商業の中心にして、南滿洲第一の都會なり。



此の地はもと清朝祖先の都せし所にして、近郊に其の宗廟あり。奉天の南に遼陽あり、南滿洲第二の都會たり。營口は遼河の河口に在りて、南滿洲水運の門口となり、最も要衝の地點を占め、貿易盛んに行はる。鐵嶺は遼河の中流に近くして、農産物の集散甚だ盛んなり。

安東は鴨綠江の下流に在る開港場なり。此の地は江を隔てて韓國の新義州に對し、奉天へは輕便鐵道を通じ、交通の要所に當れり。本邦人の市街ありて、商業盛んなり。

滿洲北部の主要なる都會は長春、吉林、哈爾濱等なり。就中長春は我が南滿洲鐵道と露西亞の東清鐵道との接續點に當り、市況甚だ盛んなり。哈爾濱は東清鐵道の要驛にして、露西亞の經營に係れる壯大なる市街あり。

南滿洲には日清・日露兩役の戰場として著名なる所多し。旅順・蓋平・海城・牛莊等は日清戰役に於て、旅順・南山・得利寺・遼陽・沙河・奉天等は日露戰役に於て、何れも當時激戦したる所なり。

滿洲は古來滿洲人の根據地なり。我が紀元千五百年代の頃より此の種族次第に勢力を得て、遼金の如き強國相踵いで其の地より起りしが、蒙古族の西方に勃興するに及びて、一時之に併吞せられたり。然るに紀元二千二百年代の中頃に至り、滿洲人再び其の勢力を恢復し、愛親覺羅氏此の地より興りて遂に清朝の基をなせり。

爾來清朝は施政上常に重きを滿洲の統治に置きしが、政令漸く弛廢して、遂に露西亞の勢力の及ぶ所となりき。さ

れど日露戰役後清國も大いに覺醒し、新に總督を置きて銳意其の治を圖り、且從來の開港場たる營口・安東の外、奉天・遼陽・鐵嶺其の他重なる都會をも開放するに至りたり。

第五 世界に於ける我が國の位置

我が國は維新以來國運の進歩甚だ急速にして、既に列強の間に伍し、世界の一大帝國を以て目せらるるに至れり。然るに翻つて廣く東洋の大勢を觀るに、其の地の歐米諸強國の所領に歸せるもの少からず。然らざるものも國勢多くは振はずして、諸強國の勢力動もすれば之に及び爲に東洋の平和破るるの虞なきにあらず。しかのみならず諸強

國は競ひて通商貿易の途を東洋に開き、平和の競争に於て更に偉大の勝利を博せんとす。此の間に立てる我が帝國の責任亦重しと云ふべし。

今や我が國の文運は漸く進みて東洋の中心となるに至れりと雖も、西洋諸國に比して尙遜色なきにあらず。更に産業の狀態を觀るに其の發達未だ十分ならず、殊に商工業は歐米の主要諸國に比して甚だしき懸隔あり。隨つて貿易の如きも歐羅巴の小國にすら及ばざるものあるを見る。我が國富強の前途尙遼遠なりと云ふべし。近年世界交通の途愈、開け、大西、太平洋兩洋を連絡するパナマ運河の如きも將に開通せんとし、太平洋沿岸の貿易は是より一層の活氣を呈せんとす。我が國民たるもの廣く世界の大勢を察し、

益、品性を陶冶し、業を勵み産を興し、以て大いに國運の發達を期せざるべからざるなり。

小學地理

新制高等小學校
第三學年
用終

K140.21-1.1-3

明治四十一年五月廿七日印刷
明治四十一年五月三十日發行

著作權所有
發行者兼
文部省

印刷者
龜井忠一

東京市神田區裏神保町一番地

印刷所
三省堂印刷部

東京市神田區三崎河岸第十二號地

